

榎尾川流域における生態系の特性

前迫ゆり（大阪産業大学大学院人間環境学研究科）

2010.10.11

大阪府河川整備委員会

参考資料：大阪府(1999)^{ab}，大阪府(2004)，大阪府(2007)

槇尾山の動植物の特徴

- 暖温帯域の特徴を有し，大阪府あるいは全国レベルの貴重な植物種を含む
- 岩崖地を立地特性とする生物種の生育・生息
- 深いV字谷や溪流に依存的な生物種の生育・生息
- 多様な生物相（貝類，底生動物，チョウ類相，トンボ相など）
- 大型猛禽類を含む森林生物相（オオタカ）
- 里山的生物種（ホタル）
- 溪流生物種（カジカガエル，タニカガエル）
- 河道整備・水質汚濁などにより，魚類相は減少している

森・湿地－河川
生物ネットワーク
成立

魚類相は貧化（1992,1997→1999）

- タカハヤ，ドジョウ，ナマズ，ドンコは新加入
- タモロコ，メダカ，モツゴ（山口県絶滅危惧II類，ギギ（大阪府レッドリスト準絶滅危惧種）は消失
- 減少種の特徴：
 - 移動性種（河口→源流への移動をする魚類減少）
 - 湧水を好む種
 - 水生植物やヨシ周辺に生育する種

上流域の植生・植物相の特徴

- レッドデータブックにリストされる貴重植物種：32種
- 溪流沿い：セキショウ群集，タニガワスゲ群集
(cf. 京都府準絶滅危惧種)
- 北限分布種：サツマイナモリ（谷沿い・植林下），カギカズラ
- 地域固有種：イズミカンアオイ（植林下）
- 岩崖地・溪流沿い：ユキヤナギ，ツメレンゲ，ヤマグルマ
- 湿地：トキシウなどのラン類
- 溪流の岩場，溪流辺，湿地に地域特性の高い植生

槇尾山の生態系特性からみた ダムと河川改修による治水について

- 上流域の渓谷・溪流環境は、全国的にも減少しており、槇尾川上流の渓谷・溪流域は、多様な生物相を擁している点で、大阪府において重要である。
- 中・下流の生物調査データは少ないが、現地視察による河川植生から、近年の河川攪乱の規模は小さいと考えられる(※生物多様性維持メカニズムにおいて河川の自然攪乱は重要)。
- ダムによる治水は、上流域の多様な生物ネットワークに大きな負荷を与えるが、中・下流の狭窄部に絞った河川改修についても、生態系の連続性を維持するための保全手法を十分に検討する必要がある。
- 環境負荷が少なく、治水効果が高い手法として、河川維持流量の問題を回避できるなら、重力式コンクリートダムから、透過型(流水型)ダムへの転換の検討も必要と考える。